

檜細工

歴史

檜細工の始まりは、約400年前、尾口村深瀬(現・白山市深瀬)を訪れた旅の僧が農民に檜笠の製法を伝授したことと言われている。当時、村では人口が増加しているにもかかわらず、田畑にできる土地が少なく、檜笠作りは農民の貴重な副収入になったと伝えられている。

檜笠は江戸時代中期には農耕用などに広く使用され、村の重要な産物になっていた。昭和6年(1931)には檜笠購買組合(のちの檜笠工業協同組合)を設立して共同作業所を建て、檜笠の生産も年々増加し、アメリカ向けの輸出用の色帽子も生産するようになった。網代(あじろ)天井や、各種のカゴ、花立などの民芸品にも応用されるようになった。

特色

檜細工は、原料のヒノキを薄く細い経木にしたもの(ヒンナまたはヘギ)を編んで作る。ヒンナ作りは、機械化により大量生産が可能となったが、ヒンナを編む作業は今も手作業で、熟練を要するものである。

現在は、檜笠のほかに、ナタ入れ、おぼけ(背負いかご)、かご、屑入れ、花立などの製品が作られている。また、いろいろの模様を編み込んだ網代天井は、尾口村(現・白山市)の民俗資料館で見ることができ、金沢市や小松市内の寺の天井に使われているところがある。



檜細工

歴史與特色

檜細工大約始於400年前，據說是由遊經尾口村深瀬（現白山市深瀬）僧侶將檜笠的製作方法傳授給了當地的農民。在當時，編制檜笠成為村民們的重要的副業收入。

檜笠在江戸時代中期被廣泛利用於農耕等，並成為當地村莊裡重要的產品。

檜細工就是將原材料檜木削成又薄又細的木片後編制成物品的技術。

現在，除了檜笠之外，還編制如放砍刀的容器、背簍、簍筐、廢紙筐、插花筒等製品。在尾口村（現白山市）的民俗資料館中可以看到編有各種圖騰的網代天花板。另外，金澤市和小松市內的一部分寺廟的天花板也採用了檜細工。

情報 資訊

| | |
|--------------|--|
| 主な生産地(主要産地) | 白山市(白山市) |
| 主な製品名(主要産品名) | 笠、おぼけ、かご、花器(斗笠、背簍、簍筐、插花用器皿) |
| 主な生産者(主要生産者) | 檜笠生産グループ(檜笠生産集團) 〒920-2152 白山市明光4丁目83(白山市明光4丁目83) TEL (076)273-1723 |